

分け登る^{ふもと}麓の道は多けれど 同じ高嶺^{たかね}の月を見るかな

一休禅師の作とされる歌です。山に登るには多くの道があるけれども、頂上に至れば同じ景色を見ることができる。そういう歌です。世の中には多くの教えがあるけれど悟りの境地は一緒なのだ、と説いているわけです。だから、仏教でも神道でもイスラム教でも土着宗教でも新興宗教でも、それぞれが真心から信心していればそれでよい。そういう主張もあります。

この考え方について、あなたはどのように思われますか。

このことは、ある一面では当てはまるように感じられますね。スポーツ、学問、思想、技能など、ある道を極めた人たちには共通の「達人」感があるように思います。「同じ山」ではなくとも、いろいろな山の森林地帯やガレ場を越えて頂上に立てば、「同じ月」を見ることができます。山頂に立つと、下界にいる時と比べて、月に手が届くかのように感じられ、感動を覚えます。

高嶺の月

でも、ちょっと落ち着いて考えてみましょう。

無粋な話ではありますが、地球から月までの距離は、およそ 38 万 km だといいます。地球最高峰のエベレスト山でも標高はおよそ 9km。山頂に到達したとしても、月は依然として遥か遠くであることに変わりありません。人間の尺度で考えれば 9km は結構な距離なのですが、宇宙的尺度で考えればほぼ誤差であって、無視できる違いでしかありません。

では、月にはどうやったら到達できるのでしょうか。

1969 年 7 月のアポロ 11 号による月面着陸から 55 年が経ちます。当時の科学技術の粋を極め、莫大な費用を投じて初めて、人類が月面に下り立つことができました。

冒頭の一首で示される「月」は、実際の天体としての月というよりも、「高み」を示すものと言えましょう。そういう「高み」に至る手段を、人類は持っていません。修行や努力によって山頂まで達することはできます。しかしそれも、「月」と比べると誤差のようなものです。そして、山頂から月まで至る、足で踏みしめられる道は、存在しないのです。

聖書には、このように欠かれています。

イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。

(新約聖書 ヨハネによる福音書 第 14 章 6 節)

「父のみもと」すなわち神の国に至るには、キリストという助けを受けるしかありません。人間がいくら努力し鍛えても、地面も空気も無い宇宙空間を 38 万 km 踏破すること

など不可能で、宇宙船という助けを要するように。

「私には、そんなことは信じられない。そんな考え方は、受け入れられない」

そういう方も、少なくないことでしょう。しかし神様は、人間とは違います。聖書のいろいろな箇所、神様と人間との価値観の違いが示されています。

わたしが見るところは人とは異なる。

(旧約聖書 サムエル記上 第16章7節)

宇宙を、人間を、創造したと主張している神様(創造主)がどういう方なのか、「道」であるイエス・キリストがどういう方なのか、聖書を通じて知ることができます。あなた自身が心を開いて語りかけるなら、日々の出来事を通して神様からの応答を受け取ることもできます。あなたご自身で祈り、求めてみませんか。

祈ってみましょう

「高嶺の月」には興味があります。キリストが唯一の「道」なのでしたら、そのことが理解できるように助けてください。わたしが納得できるように、教えてください。

札幌ペンテコステ教会

主任牧師 矢巻 邦彦

札幌市中央区南14条西18丁目4-5

(TEL&FAX 011-561-5072)

<http://sapporopk.com/>

教会の定期集会のご案内

聖日礼拝 毎週日曜日 10:30~12:00 頃

祈禱会 毎月第3木曜日 19:00~20:30 頃

ゴスペル&メッセージ 8月25日(日) 10:30~12:00 頃

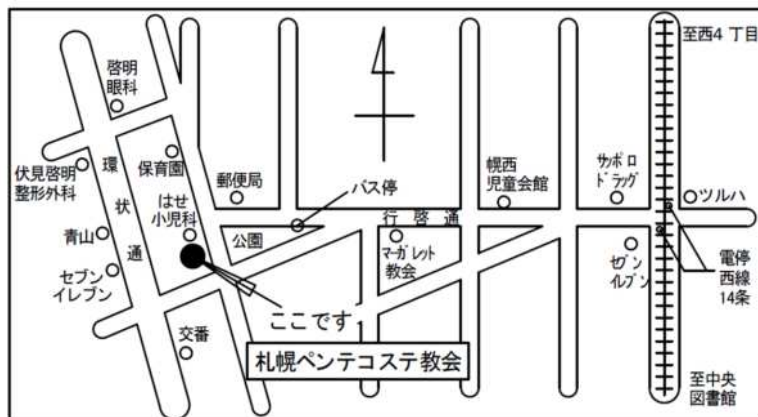
札幌ペンテコステ教会 <http://sapporopk.com> (右のQRコードから)

NewHopeのバックナンバー、礼拝のYoutube動画などもあります。

日本聖書協会 <https://www.bible.or.jp>

『聴くドラマ聖書』アプリ <https://graceandmercy.or.jp/app/>

ドラマ「The CHOSEN」 <https://www.angel.com/watch/the-chosen>



【教会へのアクセス】

西4丁目電停から市電にて
西線14条下車
JR札幌駅札幌ターミナルから
JR北海道バス啓明線[51]にて
南14条西17丁目下車

駐車スペース有